青森県立七戸高等学校

住　所　上北郡七戸町字館野四七―三一
生徒数　男子二五六名　女子三七六名
部員数　男子八名　女子一名
顧　問　小野寺　功

七戸高校空手道部の足跡をここに述べたいと思います。　昭和50年に大高先生が深浦高校から赴任し、有志を募って同好会として発足。　練習場所も事欠く中でのスタートは、ただただ先生の熱意と10人程の色々な部活動からの寄せ集め集団の心の絆と未知なるスポーツへの憧れが練習を支えたのでは無いでしょうか。

大高先生は「常に基本に忠実であれ」の信念で、晴れている日はグランドで雨の日は廊下で生徒と共に汗した結果が発足の秋に新人戦初出場で初優勝という見事な成績で実を結び、翌51年に生徒会でも部と承認され、ここに七戸高校空手道部が誕生し、初代部長は八幡博光君で現在七戸町役場の職員として活躍しております。　この秋の新人戦にも優勝し2連勝を果たし先生も選手も次年度はいよいよ総体でも優勝をと意気上がっていた52年4月に大高先生が七戸高校わずか2年で三沢商業高校へ転勤、しかも一年程で退職され県外に出られたことは七戸高校空手道部にとりましても青森県の空手道部にとりましても残念な事でありました。

私は51年4月に赴任し、52年に大高先生の後を引き継ぎましたが、早速本校が春季大会の会場になり、現在のように市町村に立派な体育館が出来る前でしたので、授業と並行しての大会となり練習会場も更衣室も不十分、また交通が不便な町で宿舎施設も少なく、その当時の顧問の先生には大変御迷惑をかけたと思います。

総体は川村文幸君がそれまで勝てなかった青森北高の秋田君を破って個人組手で初優勝し、倉敷での全国大会に出場しました。

私自信空手道では初めての全国大会で九州勢特に熊本商業高校が刻み突きでポイントを上げるのを見て、弘前大学時代対馬師範の下、森岡先輩や松井先輩にしごかれたあの蹴りや逆突きとは違うスポーツ空手の存在を知り、高校生はこれでいいのかもと勉強させられた大会でした。

この原稿を書いている時に、川村君と同期で2代部長の吉田君の突然の心臓発作による訃報が入り、この吉田君といい、1年後輩で不慮の事故で亡くなった浜中君といい、余りにも死ぬには若すぎ、お二人には心からの御冥福をお祈りしたい。

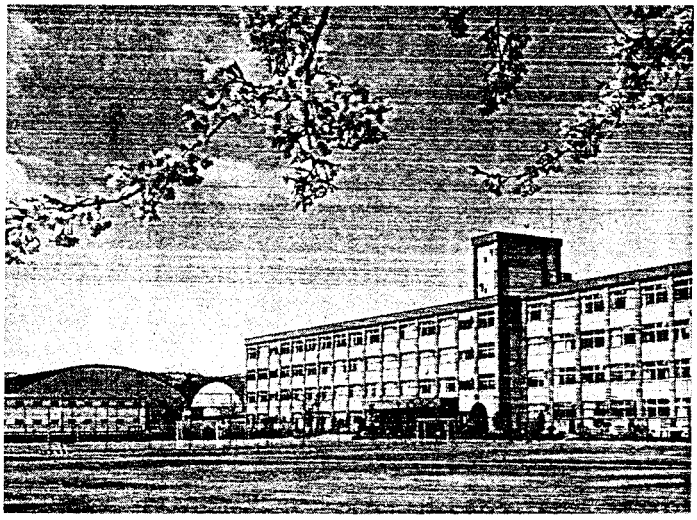
53年度は「礼儀・忍耐・友情」をモットーに春季大会団体3位個人組手は杉山実君が2位となり、彼は北海道工業大学でも空手を続け現在も八戸道場で頑張っております。　この年初めて女子部員が誕生し町屋、新山、田中さんの3人で型の練習を開始。

女子が空手なんてと思いましたが今となれば青森県指定型が懐かしく思い出されます。　また、秋の新人戦では築場和広君が個人組手で優勝、彼はその後社会人になってから東京の道場に通い、型の部で流派の国際大会で優勝している。

本校でも女子部員が活躍しはじめ団体3位とか個人4位に入賞するようになり、少しずつ組手の練習もさせ54年度総体から組手に出場し、この年が女子空手道部誕生の年となりました。

女子の型に刺激され男子の方も団体型2位、個人型千葉君3位などの55年度、部員も増えたり減ったり中途退部したりと精神的にも建て直す必要から「五条訓」を全員で唱和するようになったのもこの年からでした。

56年度になり、6代部長になったのが現在県警本部に勤務する傍ら、青森南高校のコーチをし空手も現役として頑張っている高西君で、この年も七戸高校で大会を開催しました。　女子部員も3代目になり各大会団体組手・型とも上位を取るようになり、修学旅行のため決勝戦を棄権したこともありましたが、当時は学校行事が最優先であり、現在のように一日後れで旅行団に合流するなど思いも寄りませんでした。



57年度は部員数も減り、女子も3年3名、2年ゼロ、そして1年生で、総体では3年の一人が前夜からの発熱を押して出場し、代表決定戦までやっての3位入賞は1年生に大きな影響を与え、その秋に道場での経験も無い竹内淳子さんが秋季大会において、一年生ながら優勝し、武道館での全国大会出場に結びついたと思います。

また、白帯で一年生の県代表というのも他に無く、得意の右追い突きで1勝したことが58年度での各県大会での活躍そして東北大会、神戸での全国大会出場そして59年度の総体での竹内、竹林、成田、佐々木、畠山さんたちによる七戸高校空手道部創部以来の念願だった団体組手の優勝となりました。　この年は水戸での全国大会に出場そして山形県のミニ国体では、少年女子の部団体優勝を飾るなどすばらしい年でした。　このような活躍の陰には副顧問の工藤光隆先生の多大なる支えがあり、ここに深く感謝したいと思います。　部員数は59年度の男女合わせて35名を最高に減少の一途を辿ると共に、生徒会の役員を少ない部員の中から連続して出すことになり、とうとう62年度には他の部から借りての出場になってしまいました。　人数の減少はまとまった練習の不足を来たし、団体戦も一、二回戦で敗退するようになり、ますます部員が減少するという悪循環の中、平成3年度総体で第16代部長の桝舘康成個人組手で第2位になり、久し振りに東北大会、伊豆長岡での全国大会に出場できましたし、秋の新人戦では現在第17代部長の塚尾史崇君が個人組手で第3位になるなど新しい芽が育ちつつありますが、今年に入り部員が男子3年5名に2年2名、期待の1年生がゼロ、女子は3年1名だけで、新人戦にはいままでに無い危機を迎えることになりそうです。　七戸高校空手道部も創部以来17年、私も七高に17年粘りましたが潮時かもしれません。

皆様にはこの紙面をお借りしまして、今までの御厚情に対しまして深く感謝申し上げたいと思います。